

The Age of the Expo, Meiji period export ceramics from Hyogo

目指すは、世界

蝶が舞い、花が咲く



開館20周年記念特別展

博覧会の時代

HYOGO発、明治の輸出陶磁

2025.6.7sat ▶ 8.24 sun

休館日 | 月曜日 ※ただし7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)は開館し、7月22日(火)、8月12日(火)は休館
開館時間 | 10:00~17:00 ※入館は閉館の30分前まで
観覧料 | 一般700円(600円)、大学生600円(400円)、高校生以下無料
※()内は、20名以上の団体割引料金です。※70歳以上の方は半額になります。※障がいのある方は75%割引、その介助者1名は無料になります。

主催 | 兵庫陶芸美術館、丹波新聞社 助成 | 公益財団法人 花王 芸術・科学財団
後援 | 兵庫県、兵庫県教育委員会 協力 | 丹波立杭陶磁器協同組合

左上から時計回りに：出石 / 盈進社《色絵金彩花鳥図水注》明治9~18年(1876~1885) 兵庫陶芸美術館、淡路 / 淡路製陶《色絵牡丹図花瓶》明治時代後期~大正時代(19世紀後半~20世紀前半) 兵庫陶芸美術館、神戸絵付 / 介山《色絵金彩婦人図輪花皿》明治時代(19世紀後半~20世紀前半) 兵庫陶芸美術館、出石 / 永喜山《白磁梅器貼付籠形蓋付壺》明治10~15年(1877~82)頃 個人蔵、姫路 / 永世舎《色絵金彩花鳥図花瓶》明治時代(19世紀後半) 個人蔵
部分使用：姫路 / 白鷺《色絵金彩龍草花蝶文耳付花瓶》明治時代(19世紀後半) 姫路市書写の里・美術工芸館、姫路 / 永世舎《色絵金彩草花図花瓶(一対)》明治時代(19世紀後半) 姫路市書写の里・美術工芸館、神戸絵付 / 精巧山《色絵金彩大名行列図茶碗》明治時代(19世紀後半~20世紀前半) 個人蔵



土と語る、森の中の美術館

兵庫陶芸美術館

The Museum of Ceramic Art, Hyogo



〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4
TEL079-597-3961 <https://www.mcart.jp>

The Age of the Expo, Meiji period export ceramics from Hyogo
開館20周年記念特別展

博覧会の時代

HYOGO 発、 明治の輸出陶磁

幕末から欧米諸国に広まったジャポニスムの影響により、日本の工芸品は人気を博しました。明治という新たな時代に入り、政府として初めて参加した1873年(明治6)のウィーン万国博覧会(オーストリア)での成功は、さらなる輸出品の製造を後押しし、有田(佐賀)や薩摩(鹿児島)、九谷(石川)、横浜(神奈川)などの地域で豪華絢爛な陶磁器が盛んに作られました。輸出工芸品の図案集『温知図録』が政府によって編纂されるなど、国内外の博覧会への出品や輸出が大いに奨励され、陶磁器製造が殖産興業とも深く結びついた時代です。

兵庫県内の産地では、白磁の細工物に優品の多い出石の盈進社や、鮮やかな色絵製品を焼いた姫路の永世舎、江戸時代後期に創業した珉平焼の流れを汲む淡路の淡陶社などが輸出陶磁を焼いたことで知られています。

また、1868年(慶応4)に開港した神戸港は、横浜港とともに国際貿易港として大きな発展を遂げます。神戸では港に近い利点を活かし、素地を他産地から取り寄せ、絵付けのみを行う製造者や販売店が操業しました。当時の人気を反映した、九谷の赤絵や薩摩の金欄手に倣った陶磁器が焼かれ、これらを総称して神戸絵付と呼んでいます。

本展では、2025年の大阪・関西万博の開催に合わせ、博覧会が盛んに行われた明治期に兵庫県内で作られた輸出陶磁を紹介します。時代の潮流が生んだ華やかな陶磁器をお楽しみください。



1



2



3



4



5



6

① 淡路/淡陶社《色絵花鳥図鉢》明治時代~大正時代(19世紀後半~20世紀前半) 兵庫陶芸美術館 ② 出石/友田安清《軸下彩山水月出図皿》明治37年(1904)頃 個人蔵 ③ 姫路/永世舎《色絵金彩龍鷲鸞図鶴首耳付花瓶(一対)》明治時代(19世紀後半) 姫路市書写の里・美術工芸館 ④ 神戸絵付/司山《色絵金彩花見図茶碗》明治時代(19世紀後半~20世紀前半) 個人蔵 ⑤ 神戸絵付/北儀右衛門《赤絵金彩鶴図紅茶器(5点)》明治時代(19世紀後半~20世紀前半) 兵庫陶芸美術館 ⑥ 出石/盈進社《色絵金彩武士図耳付花瓶》明治9~18年(1876~1885) 兵庫陶芸美術館
部分使用:表面の《色絵金彩龍草花蝶文耳付花瓶》、《色絵金彩草花図花瓶(一対)》(いずれも姫路市書写の里・美術工芸館)に同じ。

関連事業

記念講演会

「博覧会の時代—ジャポニスムと日本」

講師=佐藤道信氏(東京藝術大学名誉教授)

日時=7月12日(土)

13:30~15:00(会場は13:00)

会場=研修棟1階セミナー室

定員=110名(事前申込制、先着順)

聴講料=無料(ただし観覧券の半券が必要)

ワークショップ

「職人体験! 当時のデザインに挑戦」

講師=当館陶芸指導員

日時=7月26日(土) 10:00~15:00

会場=エントランス棟1F工房他

定員=20名(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)

参加費=有料

応募締切=6月29日(日) 16:00

当館学芸員による展示解説

6月14日(土)、7月19日(土)、8月23日(土)

いずれも11:00から1時間程度(観覧券が必要)。

各イベントに関する詳細はホームページでご確認ください。

同時開催のテーマ展

「丹波焼の世界 season 9」

開催中~2026年2月23日(月・祝)

次回特別展

「MINGEI ALIVE—いま、生きている民藝」

9月6日(土)~11月24日(月・振休)

夏休み! 1日まるごと こどもの日

日時=7月20日(日)10:00~15:00

館内でワークショップや探検美術館などのプログラムを開催。

※詳細は別途広報予定です。

ひょうごプレミアム芸術デー

期間=7月9日(水)~7月15日(火)

期間中はすべての展示会を無料でご覧いただけます。

※詳細は別途広報予定です。

交通のご案内【鉄道・バスをご利用の場合】◎JR福知山線「相野駅」下車(大阪駅から約50分) 駅からウイング神姫(路線バス)「兵庫陶芸美術館」「こんだ薬師温泉」または「清水寺」行き乗車約15分。「兵庫陶芸美術館」下車 ※相野駅発バス時刻/9:33、10:15、13:10、15:45、16:45、土・日・祝は10:47、11:36、13:41が増便(2025年4月現在) 【自動車をご利用の場合】◎舞鶴若狭自動車道・三田西ICから約15分、または丹南篠山口ICから約20分 ◎中国自動車道・滝野社ICから国道372号を東へ約30分 ◎阪神方面から国道176号を北上し、三田市四ツ辻信号を左折約15分 ◎駐車場無料(敷地内 普通車58台分)、大型可 【その他】◎無料貸出有(車椅子4台、ベビーカー2台)

土と語る、森の中の美術館

兵庫陶芸美術館

The Museum of Ceramic Art, Hyogo

〒669-2135

兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4

TEL 079-597-3961(代表)

https://www.mcart.jp

